

学生優秀発表賞受賞者：須广佑介 演題番号 066

子宮頸がん検診における日本と海外の比較 ～日本の検診受診率～

須广 佑介*[§] 加藤 ゆり* 金 貞姫* 高橋 夏希*
前田 悠希* 牧田 英里香* 佐野 太亮*

I. 研究の概要

子宮頸がんは他のがんと比べて、若い世代に多く発症しているがんである。このがんの原因となる HPV (human papillomavirus) は性行為によって感染するため、現代の初交年齢低下が好発年齢の低下をもたらしていると考えられている。若い世代にはがんになるイメージがないため、がんについての知識、予防方法など知らない人が多いように思える。そこで若い世代である私たち学生が検診啓発活動を行うことで検診率の向上に貢献できると考え活動を始めた。活動内容は本学で行われる学園祭や健康フェア、4月9日に行われる子宮の日 LOVE49 プロジェクトでの子宮頸がん検診についての発表などである。啓発活動を行ううちに、日本人は子宮頸がんについて余りにも知識が無いことを痛感した。そこで海外ではどのように異なるのか疑問に思い調べた結果、国の制度で検診を推奨していることがわかった。本研究では検診受診率が高いイギリス、アメリカ、北欧、フランス、ドイツで行われている制度のうち日本で実施すれば検診受診率向上が見込める制度はどの国のものか、どこの国の制度だと検診に行きたいと感じるか、またどのような制度があれば検診に行きたいと思うかについて本学 772 人を対象にアンケート調査を行った。

II. 調査結果・考察

検診受診率向上が見込める制度は、コール・リコール制のイギリスと、受診しないと保険料が高くなるアメリカの比較的強制力のある国の制度であった。さらに、どこの国の制度だと検診に行きたいと感じるかという質問に対しては自己負担がない北欧が支持される結果となった。このことから、日本人は強制力がないと検診に行かない傾向があり、必ず行くという意識を持たせる制度が必要と考えられる。しかし、アメリカの制度を日本で実施すると、日本は国民皆保険制度であるため、保険料を高くすることはできない。また、イギリスのコール・リコール制は、厚生労働省により推奨されているが、多くの自治体では受診の有無を把握できないので実施されていないのが現状である。以上より、日本で強制力を持たせる制度の実施は難しいと言える。

次にどのような制度があれば検診に行きたいと思うかという質問では、男性ではなく女性医師に検診を行ってもらいたいという意見を筆頭に、友人達が検診に行っていたら行きやすい、自己採取をするなどの意見があった。女性医師に検診を行ってもらいたいという意見に対しては神戸市クーポン指定医療機関の中で女性医師が行ってくれる病院がたくさんある。この意見からもまだまだ知

*神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 [§]you0201dadun@gmail.com

らない人が多いと感じた。

そこで我々ができる対策の一つとして、女子大生や女子高生などを対象とした子宮頸がんの怖さや検診の重要性を知ってもらうためにピアカウンセリングを実施することを考えている。ピアカウンセリングは同じ悩みを抱えた人達が集まって話し合い、意見交換をすることでその悩みを軽くするものである。具体的には二人一組になりファシリテーターが議題を出し議論を進めていく。自分だけが抱えていた悩みを共感できる人と話すことで普段することのできない子宮頸がん検診に行った話や生理痛の重さなどについての意見が出しやすくなり、コアな話ができるようになる。

今回諸外国で行っている制度を調べ、アンケートを取った結果、日本人の考え方の傾向や知識の少なさを改めて知ることができた。私たちひとり一人にできることは小さなことだと思う。しかし、少しでも多くの人に子宮頸がん検診について知ってもらわなくてはならない。まずは私たちが周りの友人達に知ってもらい、家族、知り合いと広がってゆくことを望むものである。

III. 受賞の感想

今回の学術大会発表に向けて夏休みを削って学校へ行き活動しました。その結果、優秀発表賞を頂く形で私たちの努力を評価していただき、これまで頑張ってきたことを形として残すことができたことを嬉しく思います。今回の発表では発表内

容をまとめる難しさや人前で発表する緊張感を学びました。この貴重な経験を生かし、今後も活発に活動していきたいと思います。

今回の発表は私一人ではなく啓発活動を行うメンバーと指導教員の佐野太亮先生と一緒に作り上げたものです。この場を借りてメンバーや先生に深く感謝申し上げます。

IV. 将来への抱負

私たちは「神戸常盤 LOVE49 サポーターズ」として検診啓発活動を行っています。今までの活動では聞き手に対して一方的に発表していただけたのですが、それでは子宮頸がんに関心のある人しか立ち止まってくれません。そこでまず子宮頸がんに対して興味をもってもらうような活動を今後行っていきたいと考えました。例えば 11 月 19、20 日にある神戸常盤大学の学園祭で子宮頸がんをモチーフにしたステッカーを配布したり、発表形式をトークショー形式にして聞き手が聞きやすくなるようにすることを考えています。そうすることで少しでも子宮頸がんに興味を持ち 4 月 9 日にある「子宮の日」のイベントに参加してもらえるようになればいいと思います。

この活動を私たちの学年で終わらしてしまっただけでは検診率向上に役立つことは難しいです。そのため、次の学年にも活動を引き継いでもらい、継続的に検診受診率向上に努めていければと思います。